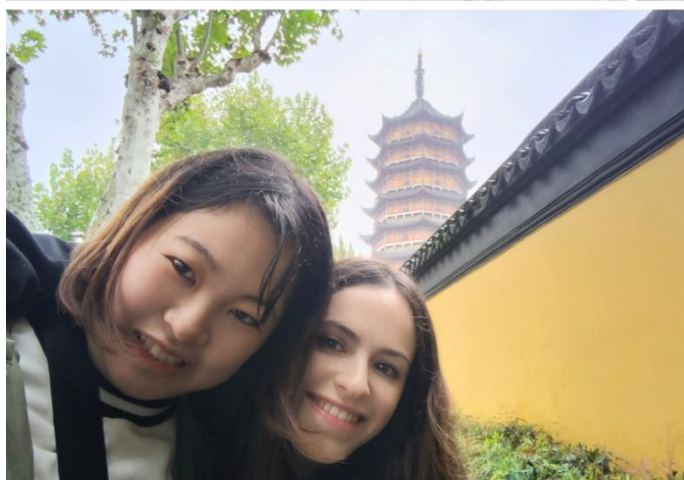




私はこれから人生を歩いていく 上で自信ができました。

【学習面】

午前中に必修科目である中国語の授業、午後からは選択科目である英語開講科目の授業が行われました。中国語の授業は全て中国語のみで行われるので、留学前にある程度中国語を身につけておいた方がいいと思いました。定期試験は、中間と期末の計2回あり、それに向けて各授業の中で小テストが毎週のように行われていましたが、予習復習を欠かさなければ難しくはないです。

英語開講科目は、Global Business Communication (中国ビジネスと海外ビジネスについて) と Appreciation of Traditional Chinese Art (中国の芸術: 琴、水墨画、書道、戯曲、日本と中国芸術の共通点や違い) を学びました。

これからも中国語と英語学習を続けていこうと思います。

【生活面】

日用品は Taobao (アプリ) で購入し、食事は外食をしたり Meituan (アプリ) でデリバリーを使用したりしていました。

移動は地下鉄やバスを利用し、高德地図(アプリ)が地下鉄の乗り換え情報が分かりやすかったので使っていました。タクシーを

手配する際は、Alipay に入っている DiDi (滴滴) (アプリ) を使っていました。

休日にはアルゼンチンのルームメイトや中国人の友達と蘇州や杭州、南京、湖州などに旅行に行きました。特に印象深かったのは、莫干山の山登りです。山道は舗装されておらず、登るのが大変で2時間程かかりましたが、頂上で日没の絶景を見ると達成感でいっぱい疲れが吹き飛びました。

【感想】

今回の留学で、コミュニケーション能力と語学力が身についたと実感しています。上海外国語大学にはアジア圏の人だけではなく、ヨーロッパやアメリカ、さらには南米といった様々な国から留学に来ているため、様々な言語や文化に出会うことができました。日本ではできない経験や、異言語・異文化を有する友人を作ることができ、自分の視野が広がり考え方が変わりました。



**泣きながらも諦めずに最後まで
頑張ることで、留学生活を笑顔
で終えることができました。**

【学習面】

「Korean & Korean Culture」の授業ではスピーキング、リーディング、ライティング、韓国文化など全てのことをこの授業で学ぶことが出来ました。ペアワークが多く、外国人留学生と一緒に練習をすることが多かったため、外国人留学生の友人も沢山作ることが出来ました。「Speech & Presentation」の授業では合計4回スピーチをしました。スピーチ本番までアウトライン、スライド作成、スピーチ練習など準備することが多かったです。「Reading Practice in English」は履修した授業の中で一番大変な授業でした。苦手な克服しようと思いこの授業を履修しましたが、読む量が多く、予習も大変で、周りのレベルもすごく高かったです。しかし、この授業を受けて単語力がとても身につきました。

【生活面】

生活面で一番成長できたことや異文化について学ぶことが出来たことはルームメイトとの寮生活です。フランス人のルームメイトと

は最初に話し合いをしてルールを決めて仲良く過ごすことが出来ました。時々文化の違いでお互いに上手い出来ないことが何度もありました。その度に話し合いをすることで、お互いが更に気を使ってお互いが快適に過ごせるようになり、より関係が良くなったと感じました。お互い違う文化を理解し合い、認め合うことは特に共同生活ではとても重要だと感じました。

【学修成果】

家族や友人と離れ、頼れる人がいない、今までとは違った環境で自分なりに行動し、頑張ることが出来ました。諦めない力が身についたと思います。様々な困難にも直面しましたが、なんとか乗り越えられて精神的にも強くなったと感じています。

【感想】

留学しなければ出会えなかった人との素敵な出会いがたくさんあったこと、この留学での経験が私の一生の財産となりました。留学して、何が自分に合っているかも分かり、将来のこともより明確になりました。これから多くの人と英語や韓国語が話す機会があって欲しい、語学力をさらに伸ばすことでこれから出会う人の役に立てたらいいな、と留学を終えて感じました。これからも諦めることなく引き続き努力をし、TOEIC や TOPIK などの試験にも挑戦しようと思います。留学という一つの大きな夢を叶えることが出来たので、次はもう一つの私の大きな目標に到達するために、一日一日を大切に目標に向かって頑張りたいです。



将来どのような進路に進んでも、 多言語の学習を続け、世界中の 友人を訪れることが私の夢です。

【学習面】

英語開講の授業を履修し、前期・後期合わせて36単位を取得しました。履修科目は、韓国文化、国際政治、ビジネス、アメリカ文学、日本文化、韓国語の授業と幅広い分野に及び、授業はディスカッション、オンデマンド、講義形式を組み合わせたスタイルが中心でした。

語学力は大きく向上しました。留学中はほとんど英語を話し、主にヨーロッパ圏の留学生との会話から生きた英語を学びました。韓国語はハングルしか分からない状態で留学に行ったのですが、約1年で日常会話ができるレベルまで上達しました。韓国語は日本語と似ている部分が多く、やはり似た言語は伸びやすいのだと感じました。英語が日本語といかに異なる言語であるか、英語習得の難しさを改めて実感しました。

【生活面】

韓国はデジタル文化が日本よりもはるかに進んでいると感じまし

た。支払いはほぼカード決済で、キオスクでの注文が当たり前でした。申込等もアプリで事前申請することが多く、待ち時間の短縮や効率化が図られている点が印象的でした。

寮生活では、多国籍の学生と暮らすことで、異文化理解が深まる貴重な体験ができました。相手の行動にイライラを感じることもありましたが、文化の違いとして受け止め、自分自身の考えを柔軟にすることを心掛け、精神的に大きく成長できたと思います。

11月から寒さが厳しくなりましたが、韓国特有の「オンドル」（床暖房）のおかげで部屋の中はとても暖かく、快適に過ごすことができました。

【安全面】

ソウルは首都だけあって、人がとても多いですが、日本同様に治安が良く、1人で夜道を歩いても安全に感じられました。しかし、ストライキやデモが多く、よく交通渋滞が発生していました。

【感想】

梨花女子大学での留学生活は非常に充実しており、留学生の数や国籍の多様さ、授業の質、立地、学習環境など期待通りの環境が整っていました。英語を学ぶためにアジアの大学に行くことに対し、周りからは驚きや疑問の声もありましたが、ここには英語を話す環境があり、語学力の向上に加え、学びや貴重な経験を得て、素晴らしい友人に出会えました。この留学はかけがえのない財産になりました。



行動することの大切さを知り、常に肯定的に考え、決断選択する力が身につきました。

【学習面】

授業のほとんどが英語で行われます。各自の PC などを使いながら講義を受けている学生が多いようでした。活水で受講した授業と似たような内容でも、英語や韓国語での説明は耳に新しく、単語力や理解力が身につきました。

【生活面】

日常生活はほとんど韓国語を使っていました。買い物や公共施設では韓国語が必須なので、特に日常会話が上達しました。

また、2 つのサークルにも所属したので、近隣大学の学生たちとの交流も多くありました。

休日は、好きな韓国アイドルのライブに行ったり、カフェ巡りをしたり、テーマパークに行ったり、旅行に行ったりしました。韓国人や他

の留学生と一日中日本語ではない言語で話しながら、休日も学びを大切に過ごしていました。ウィッシュリストを作り、一つ一つ達成していき、後悔のないように遊びも全力で楽しみました。

【寮生活】

寮での生活はとても快適でした。ルームメイトがいる期間は、ルールを決めるなどして生活をしました。ルームメイトともいい思い出がたくさんできました。

【感想】

生まれ育った町を離れるのが最初はとても不安でした。しかし、一人で準備・行動することに慣れると、自ら積極的に行動すること、分からないことはすぐに調べることが大切だと感じました。英語や韓国語でのメール、電話が多いことも良い経験になったと思います。この留学で得た知識や経験は一生忘れないものになると思います。



留学を通じて「将来のために必要な新しい技術や知識を手に入りたい!」と思うようになりました。

【学習面】

韓国語の授業は初級で、ハングルを覚えることからスタートし、数字の数え方、自己紹介、日常生活の表現などを学びました。クイズが頻繁に行われていたので、復習も頻繁にするようにしていました。韓国語の授業はアットホームな雰囲気で、150分という授業時間でしたが、毎回楽しんで授業を受けていました。韓国語のレベルはもちろん伸びましたが、それ以上にこの授業で英語力も伸びました。クラスメイトはみんな留学生なので、授業中や休憩時間にたくさん英語を使いました。

その他にも英語開講科目の授業も履修しました。Foundation of Business Englishという授業では、ビジネス英語の基本的なことを学び、将来海外で働くときにとても役に立つ内容だったので、この授業を履修できて本当に良かったと思いました。

【生活面】

海外の人との会話では、会話に“間”がないので、普段からたくさ

んのことを発言していた人の方が会話に入りやすいと感じました。レストランでの注文はタッチパネルが多く、とても便利で、お会計もカード払いがほとんどで、現金を使う機会はごく稀でした。

【安全面】

一番注意した方がいいと思ったのは、車の運転が荒いので、よく周りを見て歩くこと。歩行者優先の考え方がないので、車が近づいてきたら、安全のために車が通過するのを待った方がいいことです。

【感想】

今回の留学生活で学んだことは、自分の知識不足と英語力を補うだけの勉強だけでは足りないということです。私はドイツ人のルームメイトといろいろな話をしました。歴史の話、宗教の話、日本の文化の話、人種の話、将来の話など、たくさんの意見を交わしました。その中で、自分がどれだけ無知なのかを思い知らされました。ただ英語を学ぶだけでは中身のある会話ができないことをそこで学びました。「あなたはどう思う?」と聞かれた時、知識が乏しかったせいで、答えを返すことができませんでした。

また、留学生の多くがヨーロッパ出身の学生で、私と同じ英語が第二言語にもかかわらず、流暢に英語を話せて、それぞれが自分の夢のために勉強している姿を見て、自分がいかに遅れを取っているかを思い知りました。

大学卒業までに可能な限り知識をたくさん蓄えたいと思わせてくれた留学でした。



IUPUI

2022 年 8 月～2023 年 5 月/英語学科 4 年



この経験を生かして、自分のコンフォートゾーンを抜け出し、自分をより成長させられることに挑戦していきたい。

【学習面】

Fall 1 と 2 は PIE の Program of Intensive English を受講した。初日のテストでレベル分けが行われ、レベル 4 からのスタートとなった。朝 8:50 に最初のクラスが始まり、最後のクラスは 2 時過ぎに終わるスケジュールだった。IUPUI の正規の授業を受けるためには、PIE のレベル 5 を修了する必要があるため、Fall 2 までにレベル 5 を修了し、Spring 1 からは IUPUI の正規の授業を受け始めた。

IUPUI の正規の授業では、Fundamental of Speech Communication、Mass Media and Contemporary Society、Multicultural Education and Global Awareness、Religion and Culture、Yoga を履修した。

【生活面】

Fall の間は、ホームステイをしていた。特に印象に残っているのは、Thanksgiving と Christmas である。Thanksgiving ではホストファミリーの実家に行き、親戚たちと食事を囲んだ。Thanksgiving に向けてスーパーなどの商品が変わっていくのを

見るのも楽しかった。Christmas はただの休日として考えているのではなく、イエスキリストのことをもう一度考え、学びなおす機会だということを知った。

Spring からは International House という学生寮に移った。ここでは世界中から来ている人と知り合うことができ、各国の料理を振る舞い、とても楽しく異文化交流ができた。

授業外では、たくさんのイベントに参加するように心がけて、誘われたら基本的には参加するようにしていた。

【安全面】

夜一人で歩くことができないのはとても不便だった。キャンパスに夜遅くまで残った場合は、寮まで送ってくれるシステムをよく利用していた。ホームステイ中はバス通学していたが、バスの中も治安が必ずしも安全とは言い切れなかった。

【感想】

この留学を通して、今まで自分がどれだけコンフォートゾーンで生きていたのかを実感した。また、現地の大学生たちをみて、自分よりも自立していて、自分の人生を自分事としてきちんと考えていると感じた。もっと自分中心に物事を考えて、行動したり、プランを立てたりしていいのだということを学んだ。



サザンクロス大学

2025年7月～2026年2月/英語学科3年



自分に起こることは必ず意味があって、それが自分の予想とは違っても何とかなる！

【学習面】

渡航した次の日から始まった EAP の授業では10週間、正規授業に向けた準備のようなプログラムでした。エッセイ、レポート構成、参考文献リストの作り方、語彙やスピーキング強化のためのフリートーク、ディベートなど様々な授業形態でした。最終的には授業で学んだ構成を用いてよりアカデミックで順序立っているレポートを書く力が身につきました。

正規の授業では Term 5 で2教科、Summer Term で1教科を履修し、EAP の時よりも履修時間が減ったため、気持ち的にも楽に感じました。

【生活面】

オーストラリアは多国籍な人々が集まっていると聞いてはいましたが、想像を超える色々なナショナルリティを持つ友人と関わりました。将来、海外を拠点に多国籍な環境で働きたいと考えていた私にとっては、新たな価値観を得たとても貴重な経験でした。

また、オーストラリアではより人と人との心の距離が近いと感じました。公共交通機関内で「あなたのドレス素敵ね」や「すごくゴージャスよ」と知らない人でも褒め合ったり、すれ違う時にニコッと微笑んだり、カフェでの注文時にもスモールトークを挟むことが日常で、自然と笑顔になることができました。

【学修成果】

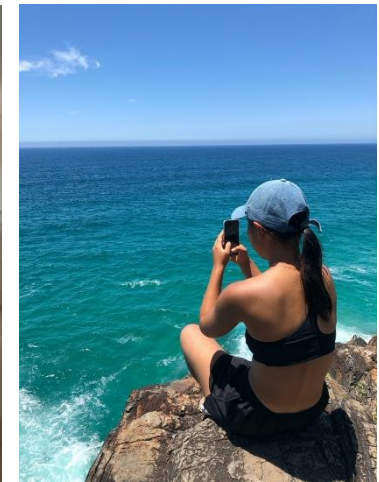
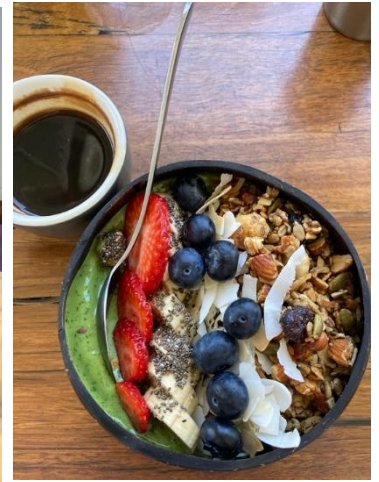
新しい環境への適応力がより身についたと思います。海外で生活しているながらも、日本人らしい丁寧さやご縁を大切に、おせっかいなほど相手に心を尽くすことで日本人ということに誇りをもって生活していました。

【感想】

この留学は自分のこれまでの人生を振り返って未来の生き方を明確にし、自分はどんな人間なのか、新しい環境で得た新たな価値観をどう自分の力に変えていけるかを学んだ7カ月でした。今まで完璧主義で生きてきた私は、時にはその生活を窮屈に感じ、規律の中に縛られて小さく限られた世界での自分しか見たことがありませんでした。しかし、オーストラリアで新しい環境での適応・努力・挑戦をした結果、自分に起こることは必ず意味があって、それが自分の予想とは違っても何とかなると、オープンマインドになったと感じます。人に恵まれ、色々な人からの愛を受け取り、次は私が全力で還元したいと思うようになりました。これからも日本人ということに誇りをもって精進し、さらに様々なスキルを磨いていきたいです。



サザンクロス大学 22年7月~23年2月/英語学科4年



英語や異文化に関してはもちろんのこと、生き方や自分自身についての理解が深まったように思います。

【学習面】

SCU の語学学校に 10 週間通い、その後、大学の正規授業を 3 セッション受講しました。

SCU の語学学校で特についた力は、ライティング力です。特にリファレンス（参考文献）の書き方やアカデミックなライティングを日本で学んだことがなかった私にとっては難しく感じることもありましたが、SCU の語学学校でこれらのことを学んでいたおかげで、大学でのレポートや課題で困ることがありませんでした。

大学の正規授業の雰囲気はとても良く、発言しやすい空間でした。クラスサイズも 20 人程度の少人数クラスでした。

【生活面】

私のホームステイ先には、アメリカ人のホストメイトがいました。とても親切で、よく映画と一緒に見たり、出かけたりしていました。文

化の違いから衝突をしたこともありますが、衝突後はお互いの文化を尊重しあい、さらに良い関係になりました。

また、オーストラリアでは夏にお正月を迎えるので、お正月の過ごし方は、多くの人がビーチにマットや椅子、ピクニックボックスを持ち寄って、家族で過ごしていました。花火も色んな所で打ち上げられていて、気候の違いによる過ごし方の違いも体験できました。

【オーストラリアのビーチ】

オーストラリアのビーチの綺麗さにすごく驚きました。人がいない時間に清掃がされていたり、ボランティアによる清掃活動により美しさが保たれているようで、私もボランティアとしてビーチ清掃に参加しました。

【感想】

オーストラリアでは「生きるために仕事をする」のではなく、「仕事を楽しんでいる」人が多くいるように感じました。そして、ホストマザーからクリスマスプレゼントとしていただいた本が「Girl Boss」という本でファッションブランドをオンラインで成功させた話でした。この本とオーストラリアでの生活を通して、「自分のファッションブランドを立ち上げる」という夢がさらに明確になりました。

また、オーストラリアでは「自分自身を愛している」人が多くいるように感じ、自分で自分のことを肯定的に見られるようになりました。おかげで、ストレスが少なくなったせいか、悩んでいた肌荒れもなくなりました。